

**SRUミーティング（2023/11/20）**

# **地域協働学部の将来展望と SRUに係る取組**

**地域協働学部長 大石達良**

# ●地域協働学部の将来展望

## 1. 学部の将来を展望した教育改革の理由

- ・学部教育に関して、学部が公式に掲げているものと、実際にめざしているものや実際に行っているものとの間にズレが生じている

理由 学部設立時に設置審の意見に従わざるを得なかった面があるため

学部設立時の構想を実際に実施してみると改めた方が良いと思われる面があるため

## 2. 学部の教育理念・育成人材像の見直しの検討

- ・ 育成人材像の見直し

現在の育成人材像

地域協働型産業人材

とくに「6次産業化人」「産業、行政、生活・文化の各分野における地域協働リーダー」を育成

今後の育成人材像

地域協働人材

とくに「産業」「行政」「生活・文化」の領域における「コーディネーター」「イノベーター」を育成

この方向で、教育ポリシーの変更を予定

## 3. 教育改革の検討

- ・ポイントは学部最重要科目である「実習科目」の改革

### 3-1. 「実習科目」と「研究科目」の統合

- ・現在の学部教育の枠組み  
「講義科目・演習科目」「実習科目」「研究科目」の3本立て
- ・設置構想では、「講義科目・演習科目」と「実習科目」で学内と学外を往還しながら学び、「研究科目」で学修全体を総括（1～3年の各学年論文執筆、卒業論文執筆）
- ・現実には、「研究科目」が必ずしも総括科目となっておらず、「実習科目」の学びが、「研究科目」に十分に活かされていない場合が見られる

- 「実習科目」と「研究科目」を統合  
学部教育で最も重点がおかれている「実習科目」に  
「研究科目」を統合  
「実習科目」を、学修全体を総括する科目として明確に  
位置付ける  
卒業研究も、「実習科目」での学びを十分に反映した  
ものとして作成する

## 3-2. 「実習科目」の多様化

- ・これまでの「実習科目」は、学部全体で統一的枠組みの中で実施。例えば、

教育の段階的实施（地域理解・企画立案・協働実践を  
段階的に同じ学年学期で実施）

振り返り学習の方式と実施スケジュール

ルーブリックの形式・内容・利用方法・実施時期

成績評価の基準と方法など

また「実習地」も学部が選定し、「実習地の担当教員」  
も学部で指名してきた

かなり無理をする形で、実習実施の統一的枠組みを維持

- ・「実習科目」と「研究科目」を統合することもふまえ、「実習科目」の多様化を図る

### ○実習地・実習領域の多様化

例えば、コミュニティ拠点を核とした地域協働  
民間営利団体等をパートナーとした地域協働  
テーマ領域・スキル等を切り口とした地域協働

### ○実習の内容や実施方法の多様化

例えば、地域課題の解決に向けた長期的な協働実践活動  
実態調査や文献調査を行い、地域課題の把握・  
整理・解決に向けた実習研究活動  
地域課題の解決に向けた商品開発やサービスの  
提供をプロジェクト的に行う活動

- ・ ただし、いわゆる「蛸壺化」は絶対に避ける努力を行う
  - 例えば、学部の教育理念・教育目標・育成人材像の確認
  - 全ての実習で、フィールドに出向き、協働的活動
  - を地域の人や団体と行うことの確認
  - 評価に関する項目や内容の統一
  - 実習で得られた成果の集約化・共有化を進める
  - 1年生実習科目を学部共通実習科目として実施し、
  - どの実習地でも共通に必要な知識・技能・態度・
  - 協働性などの基礎を修得させる



# ●地域協働学部のSRUに関する取り組み

- ・学部の教育活動の全てがSRUに関する取り組みと言える
- ・ここでは、SRUをより推進するための「学部と他組織との連携の方向」について考えたい

## 1. SRUの取り組みに関する学内での連携強化

### 1-1. 他学部との連携強化

- ・学部教員個人として、教育・研究で他学部と連携している事例はある
- ・学部組織として、他学部と連携していくことで出来ることはないかを検討していく

## 1-2. センター等との連携強化

- ・次世代地域創造センターとは連携の取り組み  
次世代地域創造センターの教員が学部授業を担当、また  
実習への情報提供や支援活動  
学部がセンターの推進する「地方創生推進士」の輩出に  
協力  
新設の「グローバル創生推進士」についても引き続き協力

## 2. 学外での連携強化

### 2-1. 実習受入組織との連携強化

- ・言うまでもなく、引き続き連携を強化していく  
来年度が学部設立から10年目の節目  
これまでの地域連携を振り返り、今後の地域連携のあり  
方を考える
- ・新たな実習地との連携もしていきたいが、現状では実習地を  
増やすことには困難がある

## 2-2.地域協働教育推進会議との連携強化

- ・ 地域協働学部の応援団的な組織

個人または企業・団体が、会費を払って会員となり、学部教育に様々な支援をしてくれている

学習成果報告会（実習報告会）の開催

社会人師匠講座（講演会）の開催

将来の公用車買い替えのための資金積立など

ここ数年はコロナのため活動に停滞感

昨年度末に久々に対面での学習成果報告会

今年度久々に総会後に会員と学生の懇談会（立食形式）

- ・ 今年度、新たな取り組みとして「高知県企業講座」を開始